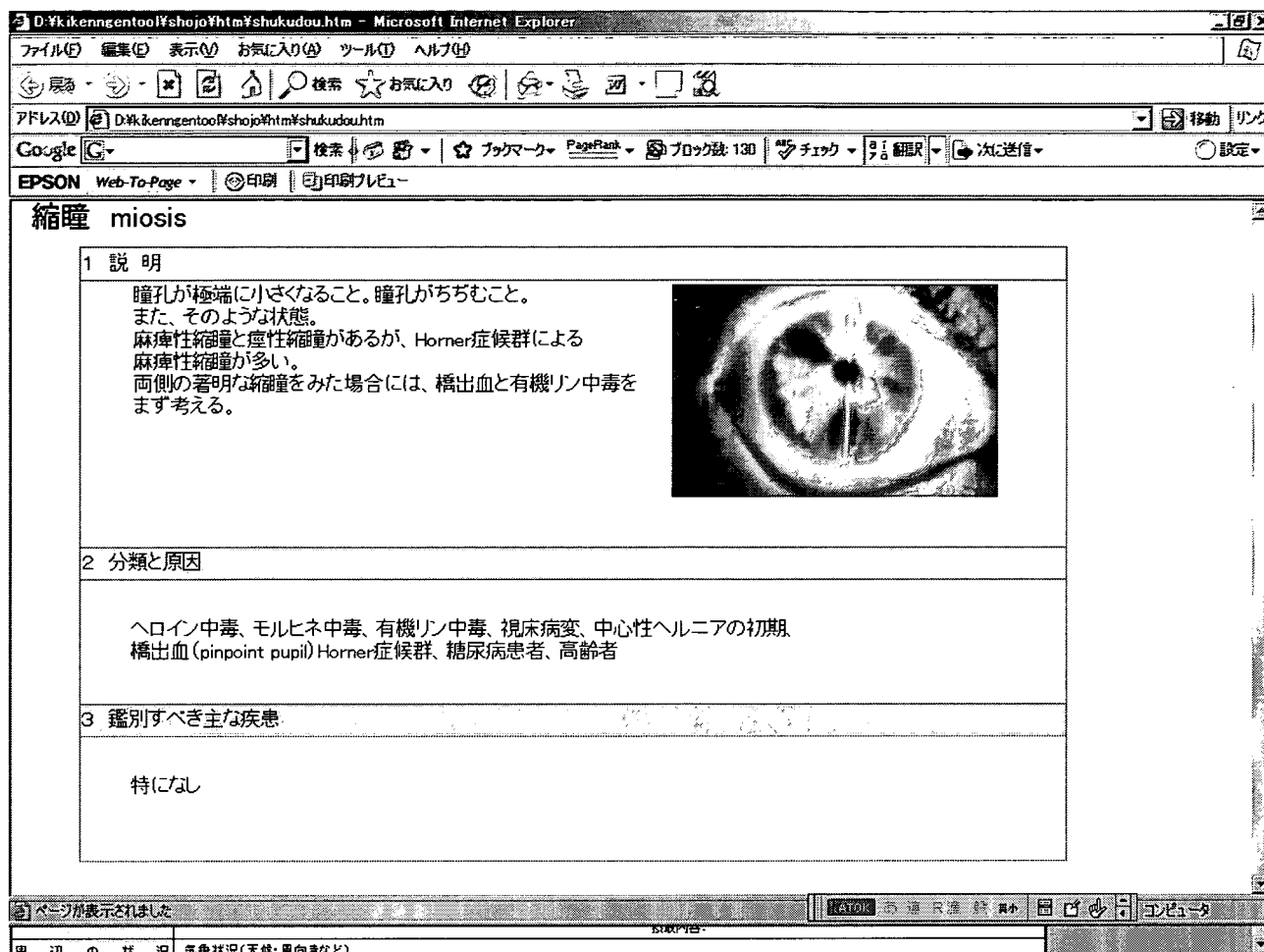


図 1 症状解説



D:\kikennentool\fshojo\htm\yshukudou.htm - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

アドレス(AD) D:\kikennentool\fshojo\htm\yshukudou.htm


Google G- 検索 検索 フックマーク PageRank ブロック数: 130 チェック 翻訳 次へ送信

EPSON Web-To-Page 印刷 印刷プレビュー

### 縮瞳 miosis

1 説明

瞳孔が極端に小さくなること。瞳孔がちぢむこと。  
また、そのような状態。  
麻痺性縮瞳と痙攣性縮瞳があるが、Horner症候群による麻痺性縮瞳が多い。  
両側の著明な縮瞳をみた場合には、橋出血と有機リン中毒をまず考える。



2 分類と原因

ヘロイン中毒、モルヒネ中毒、有機リン中毒、視床病変、中心性ヘルニアの初期、橋出血 (pinpoint pupil) Horner症候群、糖尿病患者、高齢者

3 鑑別すべき主な疾患

特になし

ページが表示されました

戻る 進む 印刷 終了

気象状況(天候・風向きなど)

図 2 危険源説明

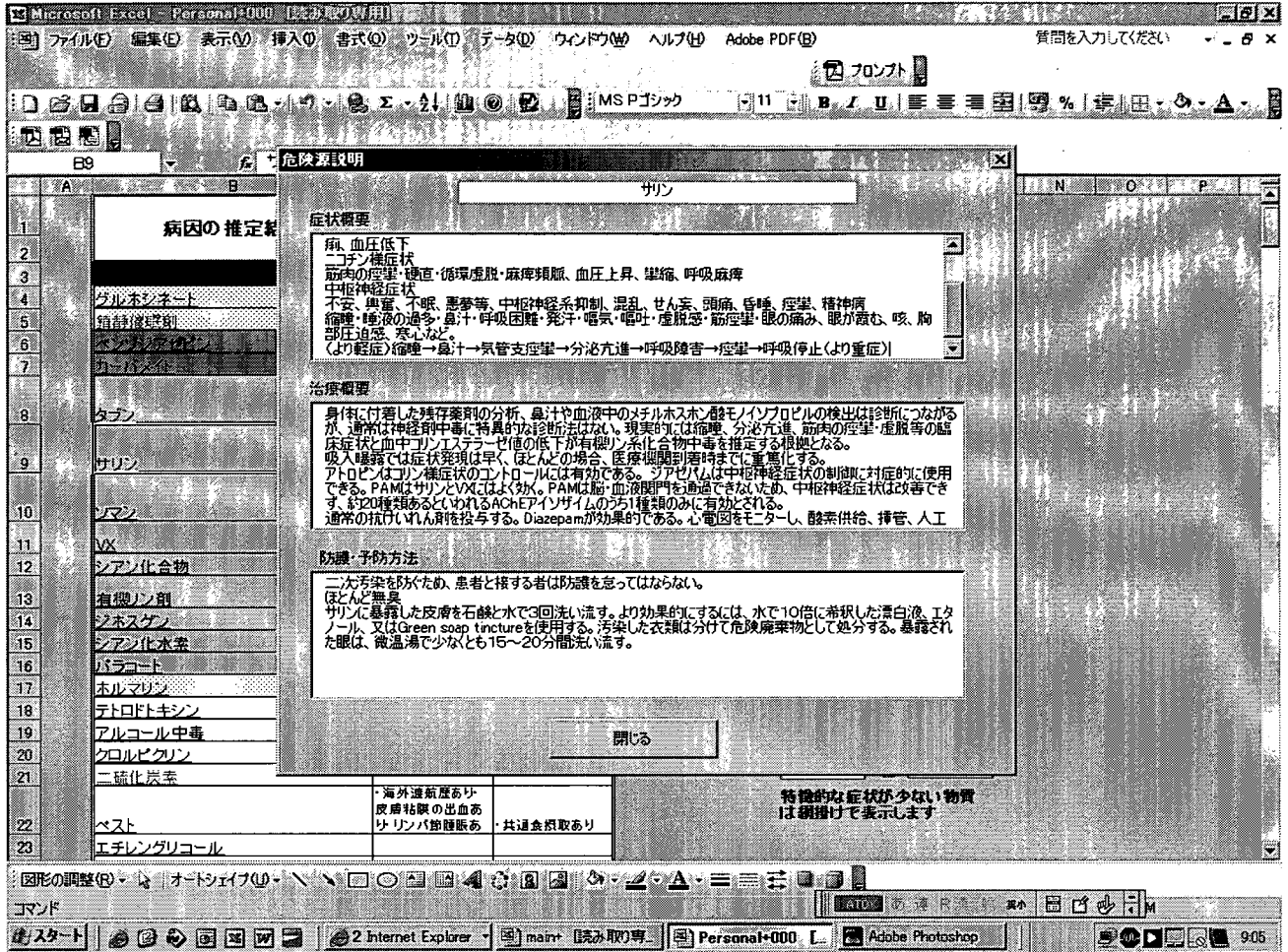


図3 危険源推定ツール（積算処理後）

健康被害発生連絡票		
通報受理者	所属 _____ 氏名 _____	
通報受理日時	平成 ____年 ____月 ____日 ____時 ____分	
通報者	氏名 _____ 電話番号 _____ 通報者の属性 _____ 医療機関・警察・消防・事業所・参加者・近所の者・通りがかりの者・その他( )	
発生日時	平成 ____年 ____月 ____日 ____時 ____分 (※:推定・調査中・不明)	
発生場所	<input type="checkbox"/> 屋外 <input checked="" type="checkbox"/> 屋内 (3) <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 保育園・幼稚園 <input type="checkbox"/> 老人ホーム・老人施設 その他( ) <input type="checkbox"/> 化学工場など その他( ) 広範囲(住所地) _____ 市 _____ 付近 <input type="checkbox"/> 行事 ( ) 主催者( ) 参加者の種類( ) 人数( )人	
被害の状況	被害者数 _____ 推定・約 _____ 名 <input type="checkbox"/> 死亡あり(死亡 _____ 名・重症 _____ 名) 男( )名・女( )名 不明 混乱の有無 _____ 有・無 _____ 拡大状況 _____ 急速拡大・拡大	
症状の種類	容観症状	
	全身	<input checked="" type="checkbox"/> 意識障害 <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 発汗 <input type="checkbox"/> 出血傾向 <input type="checkbox"/> 発赤 <input type="checkbox"/> 浮腫 <input type="checkbox"/> 皮膚発疹の出血 (2)
	神経	<input type="checkbox"/> 運動障害 <input checked="" type="checkbox"/> けいれん (1) <input type="checkbox"/> 精神症状 <input type="checkbox"/> 痙攣 <input type="checkbox"/> 抽動 <input type="checkbox"/> 熱厥 <input type="checkbox"/> 目の充血 <input type="checkbox"/> 失明 <input type="checkbox"/> 失明 (3)
	呼吸	<input type="checkbox"/> 呼吸障害 <input type="checkbox"/> 咳 <input type="checkbox"/> しゃがれ声 <input type="checkbox"/> 鼻水 <input type="checkbox"/> 口腔内出血 (1) <input type="checkbox"/> 呼吸アロウ息 <input type="checkbox"/> 呼吸からし息 <input type="checkbox"/> 呼吸シブ息 <input type="checkbox"/> 呼吸アノミ息 <input type="checkbox"/> 呼吸クワム息 <input type="checkbox"/> 呼吸ほし息
	消化	<input checked="" type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> 瀉瀉 <input type="checkbox"/> 吐血 <input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> 血便 <input type="checkbox"/> 血便 (2) (3)
その他	<input type="checkbox"/> 顔面蒼白・手足冷感 <input type="checkbox"/> 眩暈 <input type="checkbox"/> 悪寒 <input type="checkbox"/> 不整脈 <input type="checkbox"/> リンパ節の腫脹 <input type="checkbox"/> 血尿	
主観症状	<input type="checkbox"/> 眩暈 <input type="checkbox"/> 目の痛み <input type="checkbox"/> 喉の痛み <input type="checkbox"/> 倦怠 <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> 筋痛 <input type="checkbox"/> 息苦 <input type="checkbox"/> 悪心 <input type="checkbox"/> 動悸 <input type="checkbox"/> 視力障害 <input type="checkbox"/> 不眠 <input type="checkbox"/> 悪寒 <input type="checkbox"/> めまい <input type="checkbox"/> 耳鳴り <input type="checkbox"/> 関節痛 <input type="checkbox"/> 全身の痛み <input type="checkbox"/> 倦怠感 <input type="checkbox"/> 脱力感	
備考	_____ 外傷・熱傷	
他の通報先	警察・消防・保健所・その他( )	
搬送の状況	搬送先 (有・無) _____ 所在地 ( ) _____ 施設名 ( ) _____	
<input type="checkbox"/> 共通な空間 (同一建物内)		

印刷レビュー

メンテナンス モード 終了

原因推定メニュー

症状から原因推定

チェックをクリア

詳細入力フォーム

複製データを結合して入

データを集計する

集計結果をクリア

全画面表示

全画面表示を閉じる(C)

図4 危険源推定ツール（出力画面）

病因の推定結果	さらに必要な情報	
	補強データ	否定データ
グルコシナーゼ		
結核菌		
ペルオキシド		
ニコチン		
タバコ	・散腫なし・流涎あり ・発汗あり・後脈あり	・散腫あり
サリン	・散腫なし・流涎あり ・発汗あり・後脈あり	・散腫あり
シアン	・散腫なし・流涎あり ・発汗あり・後脈あり	・散腫あり
VX	・流涎あり・発汗あり ・後脈あり	
シアン化合物	・アーモンド臭あり	
有機リン剤	・散腫なし・発汗あり ・後脈あり	・散腫あり
シホスゲン	・流涎あり	
シアン化水素	・アーモンド臭あり	
バラコト		
ホルマリン		
テロトキシン		
アルコール中毒	・19いれんあり	
クロルピクリン	・流涎あり	
二硫化炭素		
ベスト	・海外渡航歴あり ・皮膚粘膜の出血あり ・リンパ節腫脹あり	・共通食摂取あり
エチレンジクロール		

**【推定結果の見方】**

症状情報 信頼度 周辺情報

高 ↑ 強調文字  
↓ 通常文字  
低 ↓ 灰色文字

取消し線

特徴的な症状が少ない物質は網掛けで表示します

図 5 危険源推定ツール（初期画面）

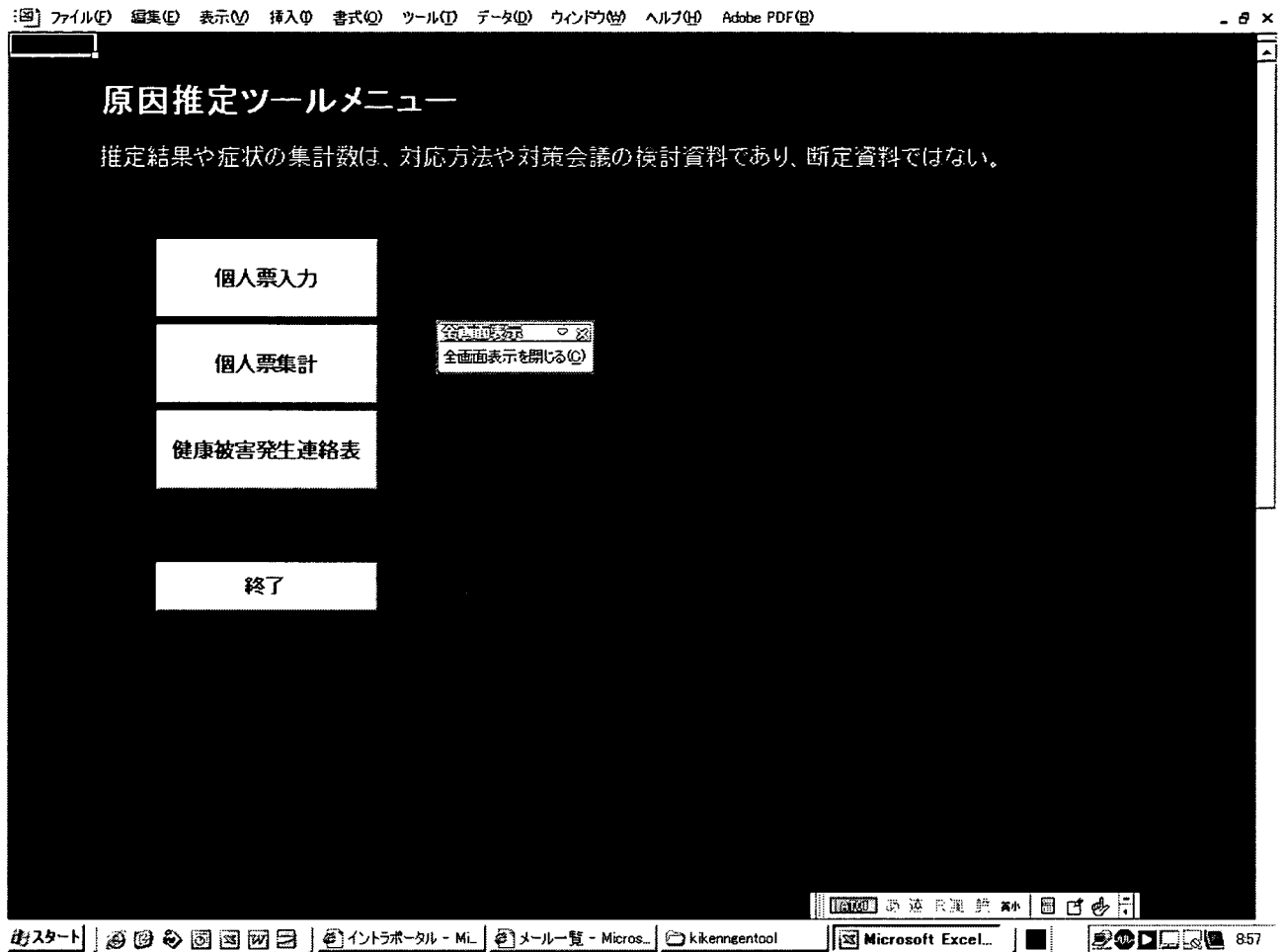


表1：各機関の状況及びコメント等

地方衛生研究所名	生物系		理化学系		備 考
	食中毒関連	その他	脱法ドラッグ	その他	
東京都健康安全研究センター	・新興再興感染症起因病原体の診断及び解析法に関する研究	・感染症情報センターの機能強化	・脱法ドラッグによる危害の未然防止に関する研究	・健康リスク情報の収集およびデータベース化	・東京都食品安全情報評価委員会への情報提供
	・ノロウイルス胃腸炎の発生・拡大防止に関する研究			・監視試験検査総合情報システムの構築	
				・アスベスト及びその代替物の検査法の開発と生体影響に関する研究	
神奈川県衛生研究所	・健康危機発生時における県内衛生研究所等相互間の連携協力の協定を調整中	・結核診断のための QFT 検査の実施と疫学情報収集	・医薬品の効能効果を標榜した健康食品の試買検査を昭和60年度から実施。現在も継続中(薬務課)		
	・食中毒患者からの原因ウイルスの解明に関する研究(食中毒と感染症！ノロウイルスの動向を探る)	・結核の感染源および感染経路解明のための結核菌型別のデータベース化へ向けての疫学情報収集の計画	・平成14年度より脱法ドラッグ対策としての試買検査を実施している。現在も継続中(薬務課)		
千葉県衛生研究所	・健康危機発生情報共有システム(地域保健特別対策事業：平成17年度)	・定点からインフルエンザ迅速情報の収集(千葉県感染症発生動向調査平成18年度から)	・買い上げによる成分検査(県薬務課事業)「平成17年度前期分15成分19検体		
		・定点から非淋菌性尿道炎の報告(千葉県感染症発生動向調査昭和62年度から)			
埼玉県衛生研究所	・O157等3類感染症についての疫学調査システムによる調査(県予算：平成14年度から)	・埼玉県内市町村予防接種状況調査(県予算：平成10年度から)	・買い上げによる成分検査を実施(県薬務課)事業。平成17年度：6成分5検体。18年度は大幅増を予定)	・(所内の食品分析、環境検査等に関するデータベースについて情報収集中。)	・食中毒に関連する情報は、行政処分も絡むため、検査に付随する断片的なものが多い。 ・感染症に関する情報は独立した担当があり、活動しているため、得やすい。
	・ノロウイルス感染症の原因究明システムによる調査(地域保健特別対策事業：平成16・17年度)		・埼玉県地方薬事審議会から「埼玉県における脱法ドラッグ対策の基本方針」を知事に答申予定。		
	・食中毒の迅速検査と並び、疫学・情報の収集を試行(県予算：平成13年度)				

関係機関名	コ メ ン ト
国立感染症研究所	・危機発生が行政区を越えて発生した場合に備えて、このような取り組みの必要性は高い(人的ネットワーク強化の必要性)。
国立医薬品食品衛生研究所	・情報還元を考えると、できるだけリアルタイムに近いものをビジュアルに訴えるものとして出す必要がある(利用者の立場での情報の活用性)。
国立保健医療科学院	・健康危機管理支援情報システムの積極的な活用に結びつけて欲しい(既存コンテンツの有効活用と改善協力への必要性)。
さいたま市保健所	・地域に問題が生じた際に相談できるところが欲しい(双方向性の情報連携の必要性)。
川越市保健所	・中核市には情報が流れにくい場合もあるので配慮して欲しい(情報ネットワークからの「漏れ」の危険性)。

資料：国立医薬品食品衛生研究所「食品安全情報」から「ダイエタリーサプリメント」に関するものを検索（一部抜粋）。

2005-25

#### 5. ブラジル産プロポリスによる急性腎障害

Acute renal failure induced by a Brazilian variety of propolis.

Li YJ, Lin JL, Yang CW, Yu CC.

Am J Kidney Dis. 2005 Dec;46(6):e125-9.

プロポリスはミツバチが集めてきた樹脂で巣の構成成分である。プロポリスには、抗炎症作用、抗菌性、抗酸化性、抗肝毒性、抗腫瘍性などがあるかもしれないと報告されており、局所用に加えてダイエタリーサプリメントとしての利用が増加しつつある。アレルギー反応に関する報告は時々あるが、比較的毒性は低いと言われている。全身毒性についての報告はまれであり、そのために毒性が過小評価されている可能性がある。

本報告は、プロポリスの摂取が原因で、血液透析を必要とする急性腎障害を起こした59歳男性に関する報告である。患者は胆管ガンを起こしており、腎障害発症の2週間前からプロポリスを摂取していた。プロポリスの摂取中止後腎機能は改善し、摂取を再開したら悪化し、2度目にプロポリス摂取を中止すると通常の状態まで回復した。これは、プロポリスが薬やダイエタリーサプリメントとして使用された場合には、急性腎障害を引き起こす可能性があり、注意が必要であることを示している。

#### 6. Xenadrine RFA の使用に関連した冠状動脈血栓症

Coronary thrombosis related to use of Xenadrine RFA

Sachdeva R, Sivasankaran S, Fishman RF, Zarich SW, McPherson CA.

Tex Heart Inst J. 2005;32(1):74-7.

エフェドラ含有サプリメント Xenadrine® RFA の使用が考えられる心筋梗塞を起こしたボディービルダー（24歳男性）の症例報告。この男性は、推奨用量の Xenadrine RFA を約1年間摂取していた。推奨用量の本サプリメントには、エフェドラ（麻黄）335 mg とガラナ種子 910 mg（カフェイン相当）が含まれていた。救急外来では男性は左腕から左前胸部の痛みを訴え、のちに腕や手のしびれを伴うようになった。その後、冠動脈痙攣と血小板活性化が原因と考えられた血栓症につづき急性心筋梗塞を発症した。違法ドラッグなどの使用や他の発症因子はなかった。

#### 7. ダイエタリーサプリメントとハーブ薬品に関連する眼副作用

Ocular side effects associated with dietary supplements and herbal medicines.

Fraunfelder FW

Drugs Today (Barc) 2005 Aug;41(8):537-45.

ハーブ製品の有害反応の最初の徴候の一つとして視覚症状がある。患者は目が見えにくいなどの自覚症状で気づく場合も多く、また眼科医の診察によって確認できる場合もある。本報告には、ダイエタリーサプリメントの副作用として眼症状に関する例をいくつか紹介している。多くの場合、摂取を減らす、あるいは中止すると症状は改善する。症例に加えて、現在の産業界に対する規制の混乱について米国を中心に論説している。

#### 8. ビターオレンジの単回投与後の血圧と心拍数への影響

Blood Pressure and Heart Rate Effects Following a Single Dose of Bitter Orange (January).

Bui LT, Nguyen DT, Ambrose PJ.

Ann Pharmacother. 2005 Nov 29; [Epub ahead of print]

“エフェドラフリー”である減量用ダイエタリーサプリメントには、エフェドリンに化学構造が類似し、交換神経興奮性アルカロイドであるシネフリンなどを成分とするビターオレンジが含まれている。本研究は、ビターオレンジが血圧（BP）や心拍数（HR）を上昇させるかもしれないと考え、15人の健康な成人に Nature's Way Bitter Orange 900 mg（6%シネフリン含有）或いはプラセボを単回摂取させてその後毎時の基礎収縮期（SBP）及び拡張期血圧（DBP）、心拍数を6時間測定した前向き無作為化二重盲検対照比較試験である。その結果、ビターオレンジ摂取の場合にプラセボと比較して摂取後5時間後までの収縮期血圧の上昇（ $p < 0.0001$ ）、4～5時間後の拡張期血圧の上昇（ $p \leq 0.02$ ）、2～5時間後の心拍数の上昇（ $p < 0.01$ ）がみられた。

2006-1

#### 7. ブラックコホシュによる筋肉障害

Muscle damage induced by black cohosh (*Cimicifuga racemosa*).

Minciullo PL, Saija A, Patafi M, Marotta G, Ferlazzo B, Gangemi S.

Phytomedicine. 2006 Jan;13(1-2):115-8.

更年期障害の改善を目的にブラックコホシュ（*Cimicifuga racemosa*）抽出物のサプリメントを摂取後重度の衰弱をきたし、血中クレアチン、ホスホキナーゼ及び乳酸デヒドロゲナーゼの上昇がみられた女性に関する症例報告。摂取をやめた後に生化学的パラメーターは正常化へ向かい、臨床症状も改善した。この患者で観察された筋肉障害の原因としては、ブラックコホシュの使用が疑われ、他には確定できる要因はなかった。ブラックコホシュの摂取により血清中の筋肉酵素レベルが上昇し衰弱した例が報告されたのは、これが初めてである。

2006-2

#### 6. 南アメリカのハーブキャッツクロウ (*Uncaria tomentosa*) とマカ (*Lepidium meyenii*) の毒性：批判的な概要

Toxicological aspects of the South American herbs cat's claw (*Uncaria tomentosa*) and Maca (*Lepidium meyenii*): a critical synopsis.

Valerio LG Jr, Gonzales GF.

Toxicol Rev. 2005;24(1):11-35.

伝統薬として普及している天然物へのヒト暴露は近年増加している。本総説では、南アメリカのハーブキャッツクロウ (*Uncaria tomentosa*、スペイン名 *una de gato*) とマカ (*Lepidium meyenii*) の薬効と毒性に関して、科学的エビデンスをもとに評価した。

キャッツクロウ、マカともに薬効性及び毒性に関して十分なエビデンスは得られていない。例えば、キャッツクロウの抗炎症性については *in vitro* 試験の結果に限られており、慢性的炎症性疾患患者の痛みを軽減させることを目的とした臨床試験では十分な証拠は得られていない。またこれらは調合済みのものを使用した結果であり、抽出物中の他の未知成分が何か作用をもつ可能性もある。動物経口試験では重度の毒性は見られていないが、急性及び亜急性経口毒性を少なからず持っていた。遺伝毒性や変異原毒性についての報告はされていない。一方、マカの臨床研究は男性の生殖力や活動力を目的とした栄養面に関係したものであり、マカの正確な作用メカニズムについてのデータは不十分である。毒性は動物でわずかな急性経口毒性と *in vitro* で細胞毒性があると報告されている。

以上結果から、伝統薬の組成の標準化、生物活性、安全性及びリスクを科学的に評価、理解するための基礎的及び臨床的研究重要であることが明らかになった。また、既存や今後の実験データ（特に臨床試験）をもとにした包括的な薬理学的及び毒性学的な情報を強化することにより、現在世界中で使用されている主要な伝統的ハーブ製品の生物学的特徴を科学的な根拠をもとに理解できるとしている。

#### 7. タイにおけるヤムビーンとロテノン毒性の初の死亡症例報告

The first fatal case of yam bean and rotenone toxicity in Thailand.

J Med Assoc Thai. 2005 Jul;88(7):984-7.

ヤムビーン (yam bean) の種を食べて、2時間以内に呼吸困難を生じて死亡した59才の男性に関する症例報告。ヤムビーンの種類、患者の胃内容物、血中 (72 ng/ml blood) よりロテノンが検出されており、原因はヤムビーン或いはロテノンの摂取によるものであると考えられる。

#### 8. 中国緑茶 (*Camellia sinensis*) を含むサプリメントに関係した肝毒性

Hepatotoxicity associated with supplements containing Chinese green tea (*Camellia sinensis*).

Bonkovsky HL.

Ann Intern Med. 2006 Jan 3;144(1):68-71.

緑茶 (*Camellia sinensis*) 成分含有のダイエット用サプリメントを摂取して肝障害を発症した37歳のヒスパニック系女性に関する症例を報告し、さらに *C. sinensis* が関係した類似の肝障害に関する既存の8例（多くが40歳以下、女性）を含め、*C. sinensis* の多量摂取や濃縮物摂取による危険性を指摘している。

この女性はダイエット用サプリメント The Right Approach Complex (Pharmanex, Provo, Utah) を4ヶ月摂取後、腹痛、吐き気、黄疸などの症状を呈した。この製品は *C. sinensis* を主要成分として3カプセルあたり383.3 mgの抽出物を含んでいる。他の含有成分については肝障害に関する報告はされていない。血中肝障害マーカーの上昇や生検で肝細胞壊死、炎症及びわずかな小葉炎症などが見られたが、感染症、胆嚢炎、胆石は確認されていない。13日後に退院し、1ヶ月後には血中マーカーが正常値に回復した。その約1年後、同サプリメントを約1ヶ月摂取したところ再び肝障害を生じ、医師からの指示により摂取を停止した後に回復している。

#### 9. ジュウニヒトエ (*Ajuga nipponensis* Makino) 中毒

*Ajuga nipponensis* Makino poisoning.

Liao SC, Chiu TF, Chen JC, Lin CC.

Clin Toxicol (Phila). 2005;43(6):583-5.

肝ガン治療用の民間薬としてジュウニヒトエ (*Ajuga nipponensis* Makino) を摂取してすぐに胃腸障害を生じ、尿量の減少と両足の浮腫は摂取後2日間続いた。患者の血中、尿中では窒素、クレアチン、ビリルビン、肝トランスアミナーゼの上昇がみられた。入院中、腎機能の低下がみられ、摂取後11日目に男性は死亡した。同時期に製造したと思われるものを他の健康人2名が摂取していたが、嘔吐と下痢のみであった。



表 1

1 都 3 県の衛生研究所における生物系分野の状況

地研名	食中毒関連	予防接種関連(麻しん等)	新型インフルエンザ関連	結核関連	その他
東京都健康安全研究センター			<ul style="list-style-type: none"> <li>・2/14 高病原性鳥インフルエンザ対策図上訓練の実施—鳥インフルエンザの発生に備え、関係局等の初動対応、防疫措置等を検証し、既定の防疫指針、アラートシステム(17年12月策定した「東京都新型インフルエンザ対策行動計画」の「発生前期」の対策)の改善に反映させる。</li> <li>・11/30 新型インフルエンザ図上訓練—(1)昨年12月策定の「新型インフルエンザ対策行動計画」に基づく、関係局が連携して実施する初めての訓練</li> <li>(2)都内初の新型インフルエンザ患者が発生したことを想定し、その「封じ込め対策」や「大規模流行期に備えた対策」に係る訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は結核関連情報は業務として行っていない。来年度については未定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8/7 感染症対策セミナー(担当者コース) プログラムの一部を担当</li> <li>・11/9 感染症対策セミナー(演習コース) プログラムの一部を担当</li> </ul>
神奈川県衛生研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院給食施設におけるウエルシュ菌による食中毒事例(4月)</li> <li>・O157による食中毒2事例(8月、10月)</li> <li>・O26による食中毒例(11月)腸管出血性大腸菌感染症情報として、随時微生物部細菌グループから PFGE パターン結果報告を受けている。</li> <li>・ノロウイルス関係 公衆衛生専門技術研修として、国立感染症研究所から講師を招聘し、講演会開催(11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は予防接種関連情報は業務として行っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は新型インフルエンザ関連情報は業務として行っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所からの要請で QFT 検査を実施</li> <li>・保健所は同意書を取り、感染源情報、QFT 検査依頼書を提出する。衛生研究所から結果を連絡する。</li> <li>・VNTR 法の導入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆衛生専門技術研修(年4回)</li> <li>・新人研修等</li> </ul>
千葉県衛生研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康危機事案発生情報システム(本庁健康危機対策室で管理しているメーリングリストの運用に協力)</li> <li>・12月4日現在で事例登録数は述べ347例。</li> <li>・毎週一覽表と、コメントを作成している。</li> <li>・細菌検査室で腸管出血性大腸菌感染症情報として随時 PFGE パターンの一致について報告している。</li> <li>・それぞれの保健所の疫学調査について相談随時助言している。</li> <li>・次年度はこれらの事例情報をデータベース化して蓄積、検索できるサーバーの構築を計画している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月の茨城県の学校における集団発生に引き続き、サーベイランスでも18週以降複数の麻疹報告があり、県内で集団事例が散見された。</li> <li>・千葉県の感染症情報の今週の注目疾患で情報提供を行なった。</li> <li>・5月には高等学校での集団発生があり保健所の調査に協力した。</li> <li>・6月12日には発生が多かった千葉市医師会による緊急講演会に協力した。</li> <li>・8月30日に県内麻疹多発に対する対策を検討する「千葉県麻しん対策検討会議」に出席した。</li> <li>・「2006年の麻しん流行状況—千葉県」を感染症情報センターのIASRに投稿した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型インフルエンザ対策プロジェクトチームにオブザーバーとして参加。</li> <li>第1回 5月12日</li> <li>第2回 6月14日</li> <li>第3回 7月14日</li> <li>第4回 9月1日</li> <li>第5回 11月2日</li> <li>第6回 11月9日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ(千葉県感染症情報)の月報に毎月結核患者情報を掲載。</li> <li>・集団事例については疫学情報と菌株を収集してデータベース化を開始している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健所など職員研修を聞き対策室で行っており、企画および講師派遣に協力。</li> <li>・5月11、12日感染症担当者研修</li> <li>・6月21-22日健康危機対策基礎研修会</li> <li>・9月5-6日、9月15-16日健康危機対策研修会(疫学)</li> <li>・11月24日健康危機事例検討会</li> <li>・12月22日社会福祉施設対象の感染症対策研修会および来年第2回事例検討会を予定</li> </ul>
埼玉県衛生研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に民間保育所にてO111が発生。ほぼ同時期に、県内他保健所からもO111発生情報あり。感染症情報センター照会。近隣自治体でO111発生確認。状況を照会(特に共通点は見つからなかった)</li> <li>・焼肉店でO157による食中毒事例(6月)</li> <li>・県庁にて7月に生活衛生課、感染症対策室、関係保健所、衛生研究所で情報共有の会議</li> <li>・ノロウイルス関係 昨年度の学校で起こった集団発生事例の検証</li> <li>・全県の介護施設従事者向けの手洗いを中心とした教育研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GW中に茨城県麻しん集団発生についての連絡あり。埼玉県への波及の恐れありとすることで県庁感染症対策室と協議。市町村別の予防接種率調査(麻しん)の地図を提供。保健所・市町村・教育局への通知に關しての助言。感染症発生動向調査による近都県の麻しん発生状況についてHP上で掲載。さいたま市保健所と学校保育所等での発生時の対応について協議。</li> <li>・埼玉県内予防接種率調査平成18年度版を発行。平成10年度から継続的に実施しているが、算出方法について一部変更。10月31日市町村向け説明会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月専門家委員会サーベイランス部会オブザーバー参加</li> <li>・6月「疑い」症例サーベイランステストシミュレーション参加</li> <li>・7月岡部センター長講演</li> <li>・7月本庄保健所と合同シミュレーション</li> <li>・8月保健所担当者説明会(県庁と共催)</li> <li>・10月所沢保健所と合同シミュレーション</li> <li>・11月春日部保健所と合同シミュレーション</li> <li>・11月埼玉県としてのシミュレーションに参加</li> <li>・12月保健所からの消毒 &amp; PPE 実技指導派遣依頼</li> <li>・県としての保健所対応マニュアル作成への協力予定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は結核関連情報は業務として行っていない。来年度に向けて感染症対策室と検討中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所担当者向け研修(感染症・食中毒関連)を年間8回企画(近隣の情報センターにも紹介)</li> <li>・11月所内・保健所職員向けの危機管理情報研修会(国立保健医療科学院から講師を招聘・健康危機管理支援情報システムの活用)</li> </ul>

別紙(1)

「情報」についてのアンケート結果

回答数：4 地衛研 193 名（理化学系 85 名、生物系 66 名、その他 25 名、不明 17 名）

【設問Ⅰ】 「情報」の必要性を感じますか？

	理化学系	生物系	その他・不明	全体
とても感じる	43	34	27	104
感じる	39	25	13	77
あまり感じない	0	3	2	5

【設問Ⅱ】 「情報」の入手源の活用状況について

	理化学系			生物系			その他・不明			全体		
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3
国立保健医療科学院 HP	0	5	80	0	9	57	1	8	31	1	22	168
国立感染症研究所 HP	3	8	74	16	38	12	7	14	19	26	60	105
国立医薬品食品衛生研究所 HP	5	42	38	1	11	54	1	10	29	7	63	121
地方衛研全国協議会 HP	1	25	56	1	19	44	0	16	23	2	60	123
他の地方衛生研究所 HP	1	39	44	0	38	24	3	24	14	4	101	82

1 = よく活用する（ほぼ毎日） 2 = 時々活用する 3 = あまり活用しない

【設問Ⅲ】 「情報」部門はどのような形態が良いか？

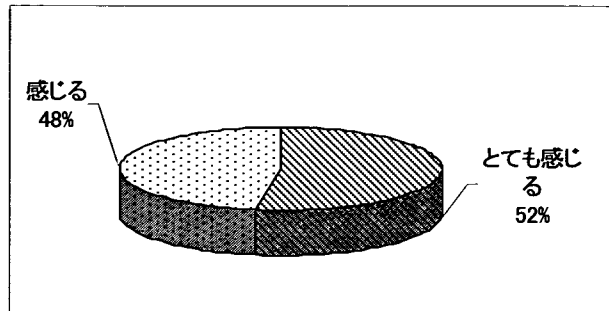
	理化学系	生物系	その他・不明	全体
完全独立部門	59	42	26	127
生物系部門	4	8	6	18
理化学系部門	9	3	6	18
不要	3	4	2	9

【設問Ⅳ】 情報機能についての専門的な研修が必要か？

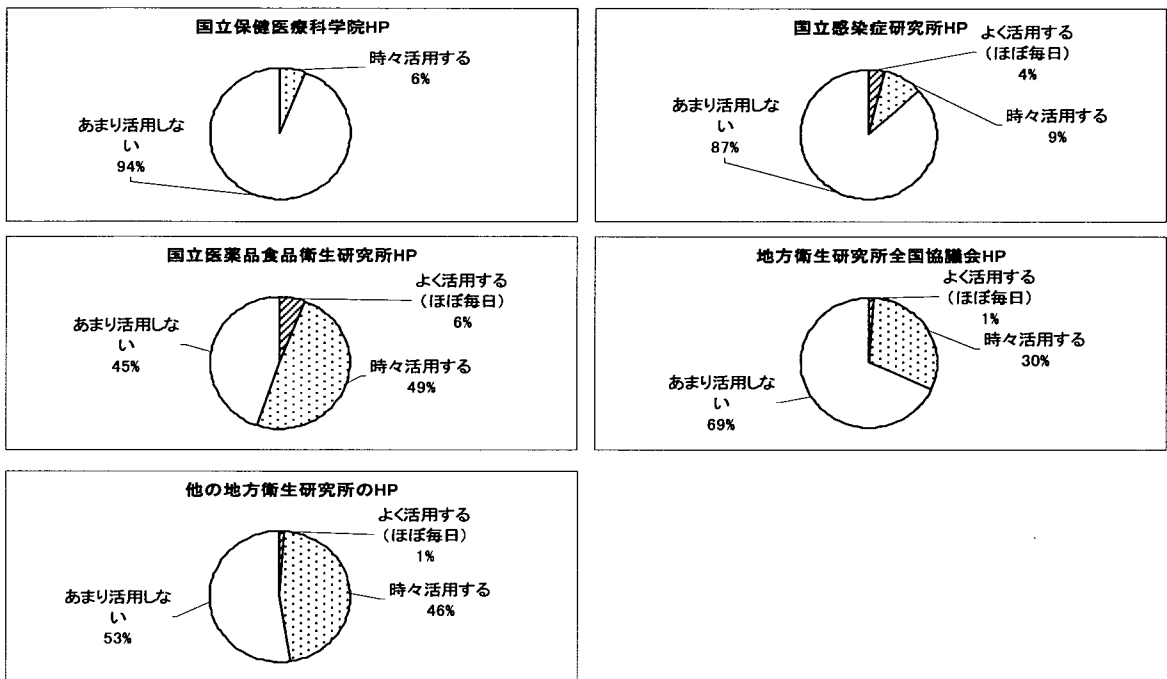
	理化学系	生物系	その他・不明	全体
思う	56	40	26	122
思わない	20	15	11	46

「情報」についてのアンケート結果 (理化学系)

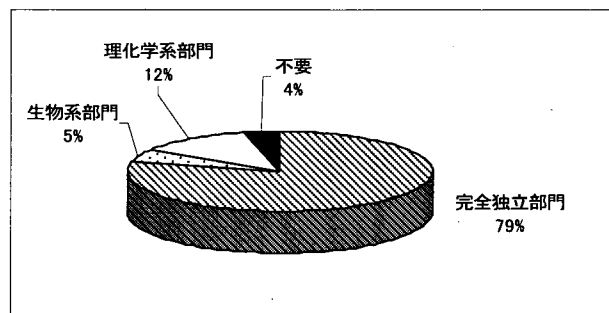
設問 I



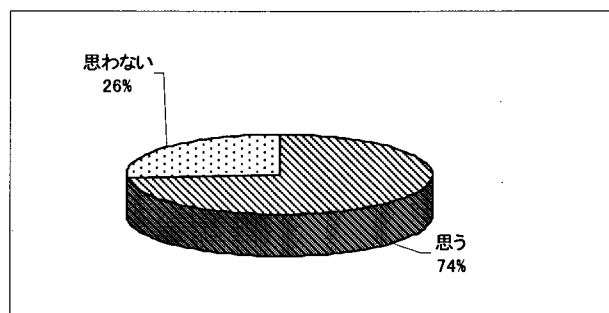
設問 II



設問 III

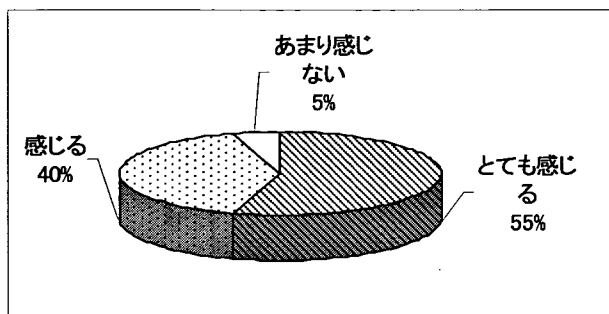


設問 IV

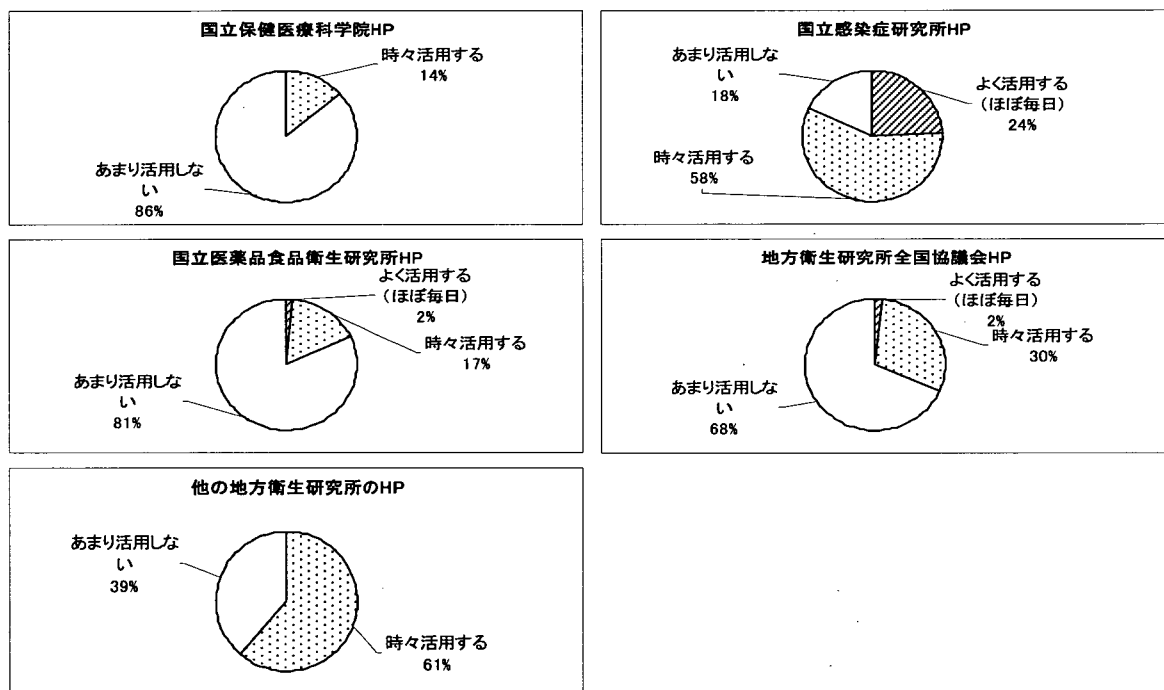


「情報」についてのアンケート結果 (生物系)

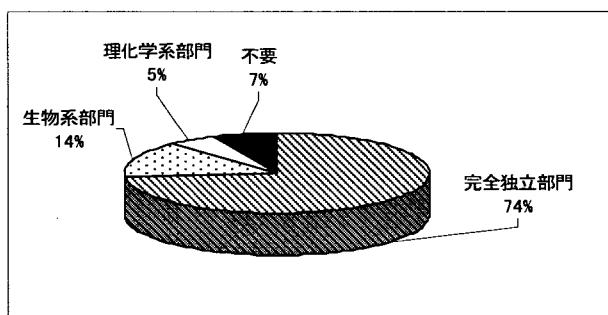
設問 I



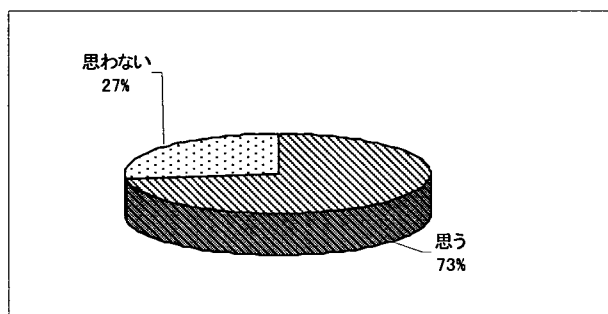
設問 II



設問 III

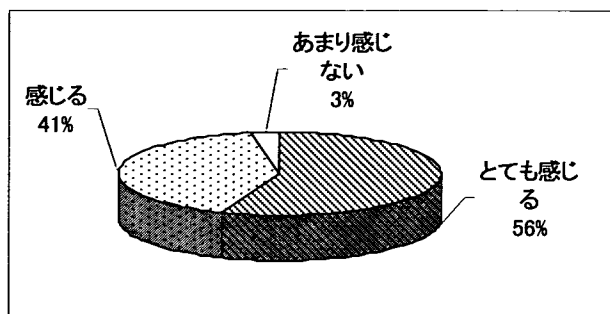


設問 IV

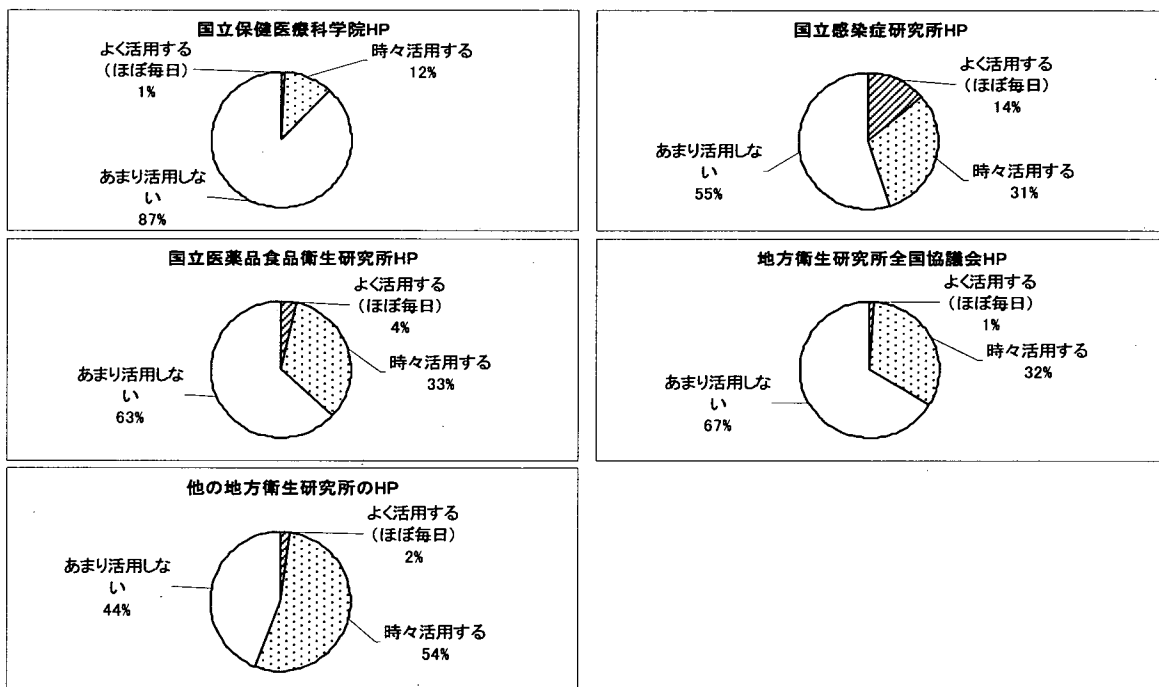


「情報」についてのアンケート結果(全体)

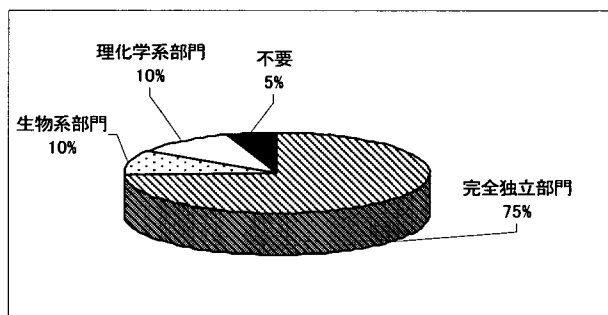
設問 I



設問 II



設問 III



設問 IV

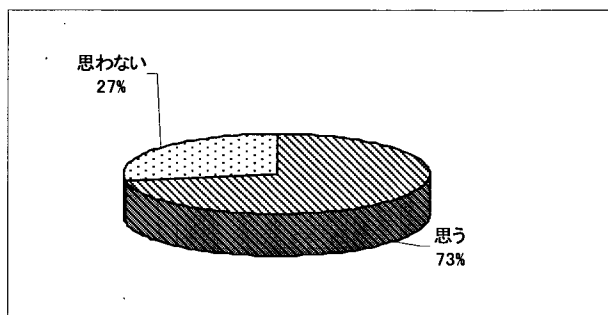


表 2

## 地方衛生研究所が関係する連携協定の例 (自治体 HP 等で確認)

協定名	締結年月	構成自治体等	備考
中国地方五県保健環境系公設試験研究機関相互応援に関する協定	平成 16 年 3 月	広島県・岡山県・山口県・島根県・鳥取県	「中国地方5県の公設試験研究機関における機器・施設の相互利用に関する協定」も同時に締結
北部九州三県における感染症に対する広域連携に関する協定	平成 17 年 9 月	福岡県・佐賀県・長崎県・北九州市・福岡市・大牟田市・長崎市・佐世保市	
九州・山口 9 県における感染症に対する広域連携に関する協定	平成 17 年 12 月	(不詳)	
健康危機発生時の衛生研究所等の相互応援に関する協定	平成 18 年 4 月	神奈川県・横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市	
健康危機発生時における近畿 2 府 7 県地方衛生研究所の協力に関する協定	平成 18 年 8 月	福井県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県・徳島県・京都市・大阪市・堺市・東大阪市・神戸市・姫路市・尼崎市・和歌山市	
東海北陸ブロック健康危機管理連絡協議会による相互支援に関する協定	平成 18 年 12 月	富山県・石川県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・名古屋市・静岡市・富山市・金沢市・岐阜市・浜松市・豊橋市・豊田市・岡崎市・東海北陸厚生局・新潟検疫所・名古屋検疫所	

別添資料

地方衛研における「情報」についてのアンケート

(該当するもの(番号等)に○を付けてください。)

あなたの所属する衛研(東京・千葉・神奈川・埼玉)  
あなたの所属する分野(生物系・理化学系・その他)

I 業務を行う上で「情報」の必要性を感じますか?

- 1 とても感じる      2 感じる      3 あまり感じない

II 業務上必要な「情報」の入手源の活用状況について

1-1) 国立保健医療科学院(「健康危機管理支援システム: H-crisis」に限る。) HP

- 1 よく活用する(ほぼ毎日)      2 時々活用する(頻度: )  
3 あまり活用しない(頻度: )

{ 活用していない理由: }

1-2) 国立保健医療科学院 HP にどのような情報が有用といますか?

{ }

2-1) 国立感染症研究所 HP

- 1 よく活用する(ほぼ毎日)      2 時々活用する(頻度: )  
3 あまり活用しない(頻度: )

{ 活用していない理由: }

2-2) 国立感染症研究所 HP にどのような情報が有用といますか?

{ }

3-1) 国立医薬品食品衛生研究所 HP

- 1 よく活用する(ほぼ毎日)      2 時々活用する(頻度: )  
3 あまり活用しない(頻度: )

{ 活用していない理由: }

3-2) 国立医薬品食品衛生研究所 HP にどのような情報が有用とと思いますか？

{ }

4-1) 地方衛生研究所全国協議会 HP

- 1 よく活用する (ほぼ毎日)      2 時々活用する (頻度:                      )  
3 あまり活用しない (頻度:                      )

活用していない理由: { }

4-2) 地方衛生研究所全国協議会 HP にどのような情報が有用とと思いますか？

{ }

5) 他の地方衛生研究所の HP

- 1 よく活用する (ほぼ毎日)      2 時々活用する (頻度:                      )  
3 あまり活用しない (頻度:                      )

6) その他に活用している情報入手源 (いくつでも可)

{ }

III 衛生研究所の「情報」部門としてはどのような形態が良いとと思いますか？

- 1 完全独立部門      2 生物系部門      3 理化学系部門      4 不要

IV 衛生研究所の職員に、情報機能についての専門的な研修が必要だと思いませんか？

- 1 思う      2 特に思わない

その理由: { }

御協力ありがとうございました。



表 1

1 都 3 県の衛生研究所における生物系分野の状況

機関	予防接種関連(麻しん等)	食中毒関連	新型インフルエンザ関連	結核関連	院内(施設内)感染関連	その他
神奈川県衛生研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19年5月麻しんの流行について、神奈川県感染症発生動向調査解析委員会を開催する。</li> <li>・保健所長会に状況説明をおこなう。</li> <li>・解析委員会の討議内容を感染症情報センターHPに掲載し周知を図る。</li> <li>・麻しん流行状況について感染症情報センターHP上で情報提供し、注意喚起をおこなう。</li> <li>・県庁と随時連絡をとり、議会対応や国への要請等の資料提供をおこなう。</li> <li>・解析委員会の結果を受け、県医師会が会員へ国立感染症研究所感染症情報センターの麻疹DBへの入力を通ずる。</li> <li>・神奈川県感染症誌に神奈川県予防接種実施状況を掲載する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食中毒を含め、ノロウイルスの集団発生状況や検出状況等をHPで掲載し、注意喚起をおこなう。</li> <li>・県内発生した腸管出血性大腸菌感染症のPFGEパターン結果について、所内で傾向等の検討をおこなう。</li> <li>・19年5月公衆衛生専門技術研修として、埼玉県衛生研究所小野先生の「カンピロバクター食中毒について」の講演会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19年3月神奈川県インフルエンザ(H5N1)等対応合同訓練を実施し、健康危機管理及び試験検査機関として参加する。</li> <li>・参加機関&gt; 神奈川県(保健福祉総務課、健康増進課、衛生研究所、茅ヶ崎保健所他8保健所、災害消防課)</li> <li>・藤沢市(藤沢市保健所、藤沢市民病院)</li> <li>・19年10月公衆衛生専門技術研修として、国立感染症研究所感染症情報センター岡部先生の「健康危機管理の対応—新型インフルエンザ対策ガイドラインフェーズ4以降を中心に」の講演会を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健所接触者調査でのGFT検査を実施する。</li> <li>・結核の年報を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県感染症発生動向調査解析委員会を開催する。</li> <li>・研修医地域保健研修等での見学に随時対応する。</li> <li>・健康危機管理業務として、県内の衛生研究所等連携促進連絡会(県、5市、主催:県保健福祉総務課)を開催し、野島死等への対応を協議する。</li> </ul>	
東京都健康安全研究センター		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学生食堂の食中毒による腸管出血性大腸菌感染症(O157)集団感染事例の対応</li> <li>菌陽性者170名・患者57名(HUS3名) 中学・高校:27名・15名 大学:123名・34名 調理関係者:10名・4名 大学関係者:7名・1名 その他:3名・3名</li> <li>・積極的疫学調査支援(医師1名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆東京都新型インフルエンザ対策行動計画、東京都新型インフルエンザ対応マニュアル</li> <li>◆新型インフルエンザ対策訓練の実施 (知事本局、青少年・治安対策本部、総務局、生活文化局、環境局、福祉保健局、病院経営本部、産業労働局、中央卸売市場、建設局、港湾局、交通局、水道局、下水道局、教育庁、東京消防庁)</li> <li>◆八都府市新型インフルエンザ対策検討部会</li> <li>◆症候群別サーベイランス 救急外来からの入院患者を対象</li> <li>◆救急搬送サーベイランス 東京都消防庁と連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆保健所支援(地域連携バス・システム化)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆都立高校における麻しん集団発生事例への対応</li> <li>・積極的疫学調査支援(医師1名)</li> <li>・ウイルス検査実施</li> <li>◆麻しんの集団発生事例継続調査</li> <li>・同一施設で2名以上の患者発生があった事例を毎週調査。集計結果を本庁・保健所へ還元。</li> <li>・Q&amp;Aを作成、HPに掲載</li> <li>◆感染性胃腸炎の集団発生事例継続調査</li> <li>・同一施設で10名以上の患者発生があった事例を毎週調査。集計結果を本庁・保健所へ還元。</li> <li>◆ノロウイルス対策緊急タスクフォース(疫学的検討)</li> <li>・室内環境による感染拡大要因の検討・初動対応用チェックリストの提案</li> <li>◆保健所担当者へシステム説明会</li> <li>・NESID・Web 発生動向・K-net・H-crisis</li> <li>◆積極的疫学調査事例の収集と精査</li> <li>◆アジア大都市感染症対策プロジェクト</li> <li>◆感染症関連のメディア情報発信</li> <li>◆東京都健康危機管理情報ネットワークシステム(K-net)の運用管理</li> </ul>	
千葉県衛生研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月、麻しんの集団発生があった中学校の対策会議に当所ウイルスの担当と出席し、今後の対応について助言。</li> <li>・9月、千葉県での麻しん発生状況の現況を「千葉県結核・感染症発生動向調査委員会」で報告。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当県で作成した「健康危機事案情報共有システム」により、各健康福祉センター(保健所)で入力し、メーリングシステムで送られた最新の食中毒発生情報の共有を継続実施している。当情報センターではこれらの情報の蓄積、解析を行い、疫学的、分子疫学的解析結果も発信している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先に策定した「千葉県新型インフルエンザ対応マニュアル」をもとに、「千葉県新型インフルエンザ対策行動計画」をつくり関係機関に周知。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結核発生状況については県内の発生状況を感染症発生動向調査委員会時に月情報として提供。</li> <li>・感染症情報センターではこれらのデータをホームページ上で公開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月、麻しんの集団発生があった中学校の対策会議に当所ウイルスの担当と出席し、今後の対応について助言した。</li> <li>・新型インフルエンザの発生時については「千葉県新型インフルエンザ院内感染対策ガイドライン」で対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県庁の健康福祉部健康危機対策室を事務局とした健康危機対策(基礎)研修会を6月に、健康危機対策(疫学)研修会を9月に実施。対象は健康福祉センター(保健所)の感染症・食中毒担当者。</li> </ul>
埼玉県衛生研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・18年末より、週報報告で複数報告例があり、情報センターHPで注意喚起(近都県情報及び定期予防接種呼びかけ)</li> <li>・19年2月保健所長会に状況説明</li> <li>・さいたま市会議</li> <li>・19年3月県発生動向調査検討委員会に報告説明</li> <li>・4月以降県庁への随時資料提供協議(報告者の接種履歴確認徹底)</li> <li>・さいたま市会議</li> <li>・5月末定期記者発表にて知事説明</li> <li>・6月1日県庁内会議</li> <li>・6月13日市町村担当課長会議(さいたま市の対策も説明)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月東京の大学食中毒関連事例(県内25例)と同一PFGEパターンが6月末から7月にかけて県内で発生。7月上旬に国内各地で散発している情報を得る。</li> <li>・同一パターンでの家族内発生11例の保健所現地調査支援(3名派遣)、感染研FETPと情報交換(3名)</li> <li>・さいたま市と原因究明事業に関する連携強化についての協議(県、市、各地研にて:連携窓口確認と基幹感染症情報センターとしての位置づけを要綱化へ)</li> <li>・9月保育所での集団発生(HUS2事例を含む)県庁及び保健所長からの疫学調査支援要請(2名派遣)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県新型インフルエンザ対応マニュアル作成について県庁と協議</li> <li>・県内の医療体制の整備等を検討する埼玉県新型インフルエンザ専門家会議に事務局助言者として参加(第3回まで開催。発生予測モデルについて情報センターコンサルテーション)</li> <li>・第1回八都府市新型インフルエンザ対策検討部会7月9日</li> <li>・新型インフルエンザ保健所等合同シミュレーション(9月20日坂戸保健所、10月29日東松山保健所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月から結核発生状況については県内の発生状況を月情報として提供</li> <li>・7月に保健所長依頼にて定期外健診支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月知的障害者更正施設にて細菌性赤痢患者が発生。保健所の設置した対策委員会に参画(施設内の調査、消毒、健診等の対策にラボとともに関与。10月終息に向けた状況)</li> <li>・4月県内中核病院にてVRE感染者が集団発生。県医療整備課の依頼にて、現地職員派遣と疫学調査支援(FETPと共に)と細菌検査(感染研の指導の下、PFGE検査)</li> <li>・5月23日中間報告会</li> <li>・7月12日感染研職員による情報センター研修会「院内感染とその対策の現状」を感染症担当及び医務担当向け研修会</li> <li>・7月27日最終報告会</li> <li>・厚労省からの依頼にて9月院内感染症予防対策研修会にて「院内感染症対策における地方衛生研究所の役割」を話す。</li> </ul>	

表 2

## 地方衛生研究所が関係する連携協定の例（自治体 HP 等で確認）

協定名	締結年月	構成自治体等	備考
中国地方五県保健環境系公設試験研究機関相互応援に関する協定	平成 16 年 3 月	広島県・岡山県・山口県・島根県・鳥取県	「中国地方 5 県の公設試験研究機関における機器・施設の相互利用に関する協定」も同時に締結
四国地方 4 県保健環境系公設試験研究機関相互応援に関する協定	平成 17 年 8 月	香川県、徳島県、愛媛県、高知県	
北部九州三県における感染症に対する広域連携に関する協定	平成 17 年 9 月	福岡県・佐賀県・長崎県・北九州市・福岡市・大牟田市・長崎市・佐世保市	
九州・山口 9 県における感染症に対する広域連携に関する協定	平成 17 年 12 月	(不詳)	
健康危機発生時の衛生研究所等の相互応援に関する協定	平成 18 年 4 月	神奈川県・横浜市・川崎市・横須賀市・相模原市	
健康危機発生時における近畿 2 府 7 県地方衛生研究所の協力に関する協定	平成 18 年 8 月	福井県・三重県・滋賀県・京都府・大阪府・奈良県・和歌山県・徳島県・京都市・大阪市・堺市・東大阪市・神戸市・姫路市・尼崎市・和歌山市	
東海北陸ブロック健康危機管理連絡協議会による相互支援に関する協定	平成 18 年 12 月	富山県・石川県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県・名古屋市・静岡市・富山市・金沢市・岐阜市・浜松市・豊橋市・豊田市・岡崎市・東海北陸厚生局・新潟検疫所・名古屋検疫所	



図 1 : Web2.0 時代の学びコミュニティ「ナレッジサーブ」  
 (ナレッジサーブ株式会社)

<http://www.knowledge.ne.jp/index.html>

インターネットでオンライン通信講座が開催できる講師向け e ランニングサービス、及び受講希望者向け講座情報サービスがそれぞれ提供されている。

受講希望者は、会員登録をした上で、検索システムにより自分の受講したい教育コンテンツを探して、受講申し込みを行うことができる。



図 2 : 防災・危機管理 e-カレッジ（総務省消防庁）

<http://www.e-college.fdma.go.jp/top.html>